

平成29年上半期におけるコミュニティサイト等に 起因する事犯の現状と対策

1 全体の傾向

- (1) コミュニティサイト及び出会い系サイトに起因する事犯の被害児童数の推移
- (2) 罪種別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)
- (3) 年齢別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)
- (4) 罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)
- (5) 年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

2 被害の現状

- (1) 主なコミュニティサイト種別の被害児童数の推移
- (2) 被害児童のコミュニティサイトへのアクセス手段(割合)の推移
- (3) コミュニティサイトにおける被害児童の現状
- (4) フィルタリングの利用状況
- (5) 被害児童数が多いサイト

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

資料6

資料7

資料8

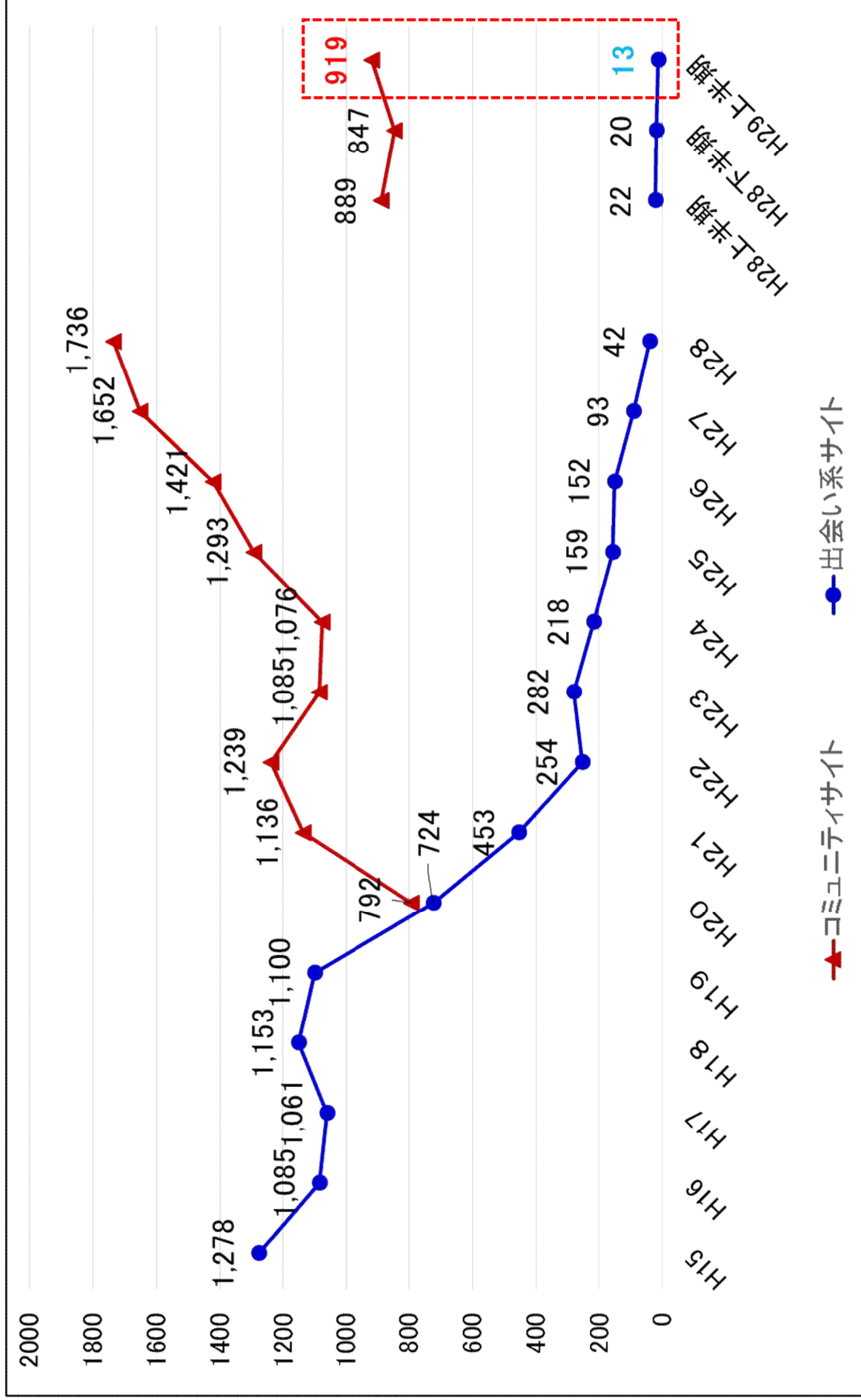
資料9

資料10

平成29年10月19日
生活安全局情報技術犯罪対策課

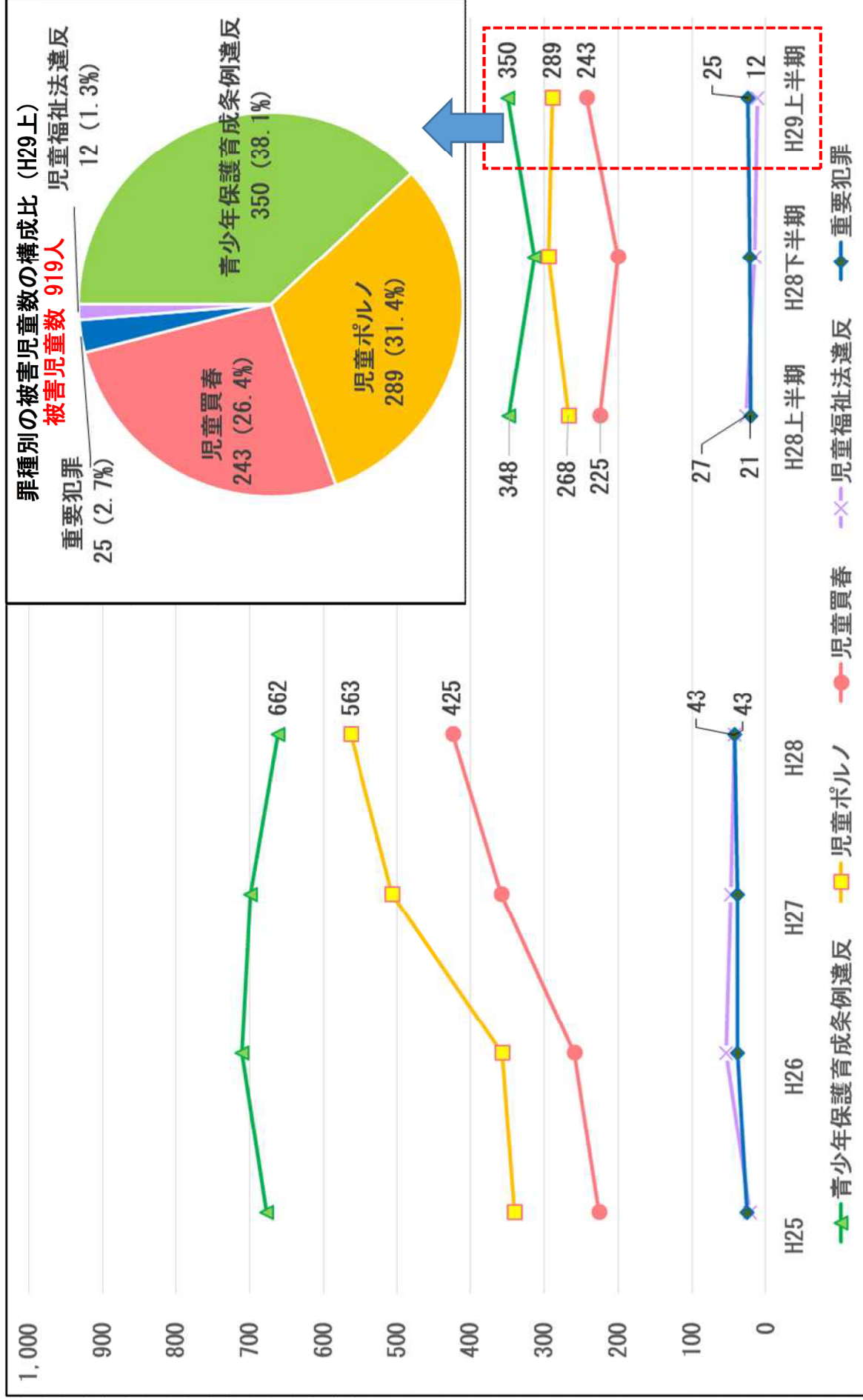
資料1 コミュニティサイト及び出会い系サイトの被害児童数の推移

- ・コミュニティサイトにおける被害児童数は増加傾向が継続し、過去最多。
- ・他方、出会い系サイトにおける被害児童数は更に減少し、過去最少。

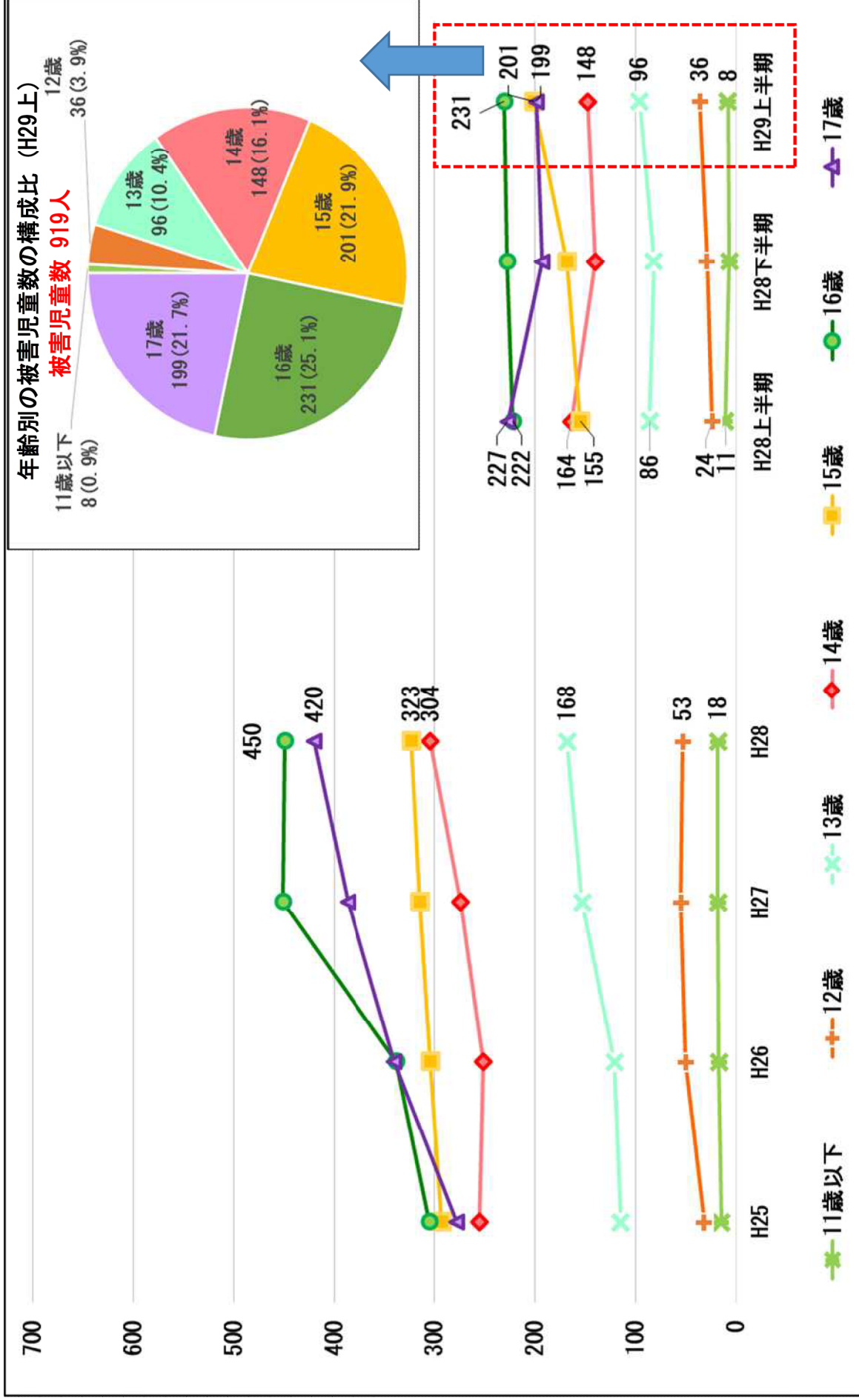


罪種別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)

コミュニティサイトでは、児童買春及び児童ポルノの被害児童数が増加傾向。他罪種は横ばい傾向。



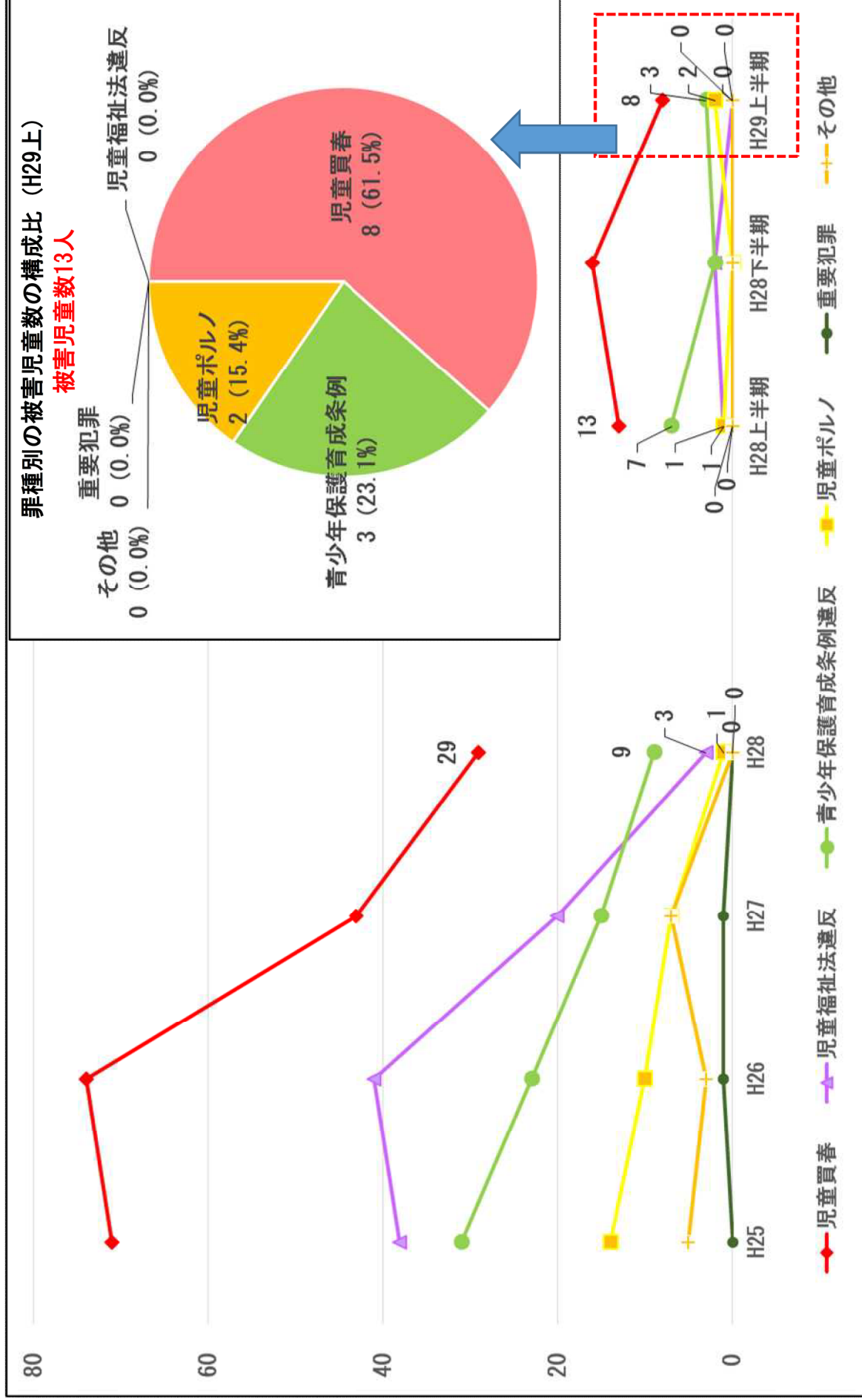
14歳以上の被害児童数が多く、特に16歳、17歳の被害児童数の増加傾向が顕著。



資料4

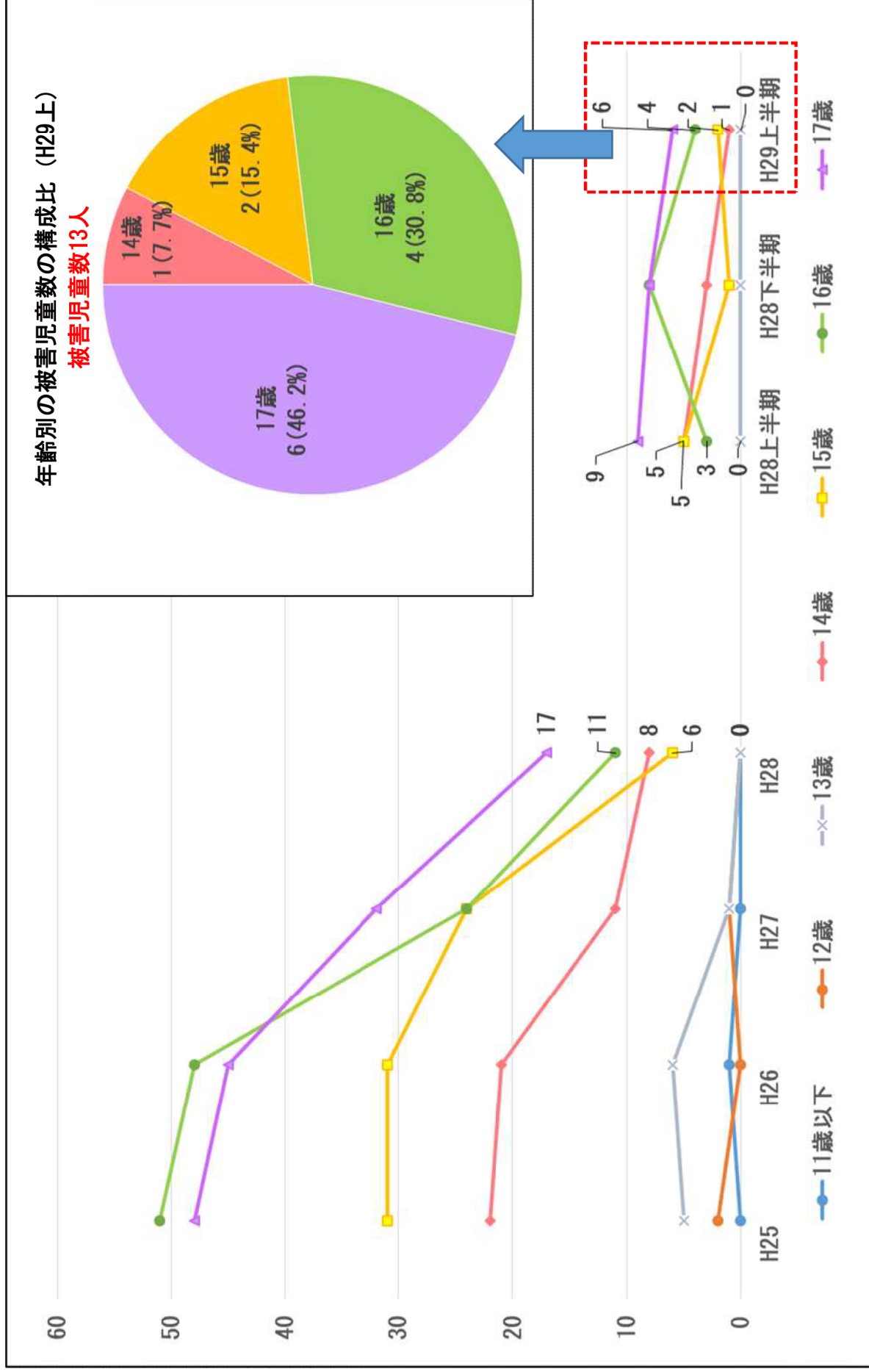
罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

- ・ 平成20年の出会い系サイト規制法の改正以降減少傾向にあるところ、更に減少。
- ・ 罪種別では児童買春が半数以上。



年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

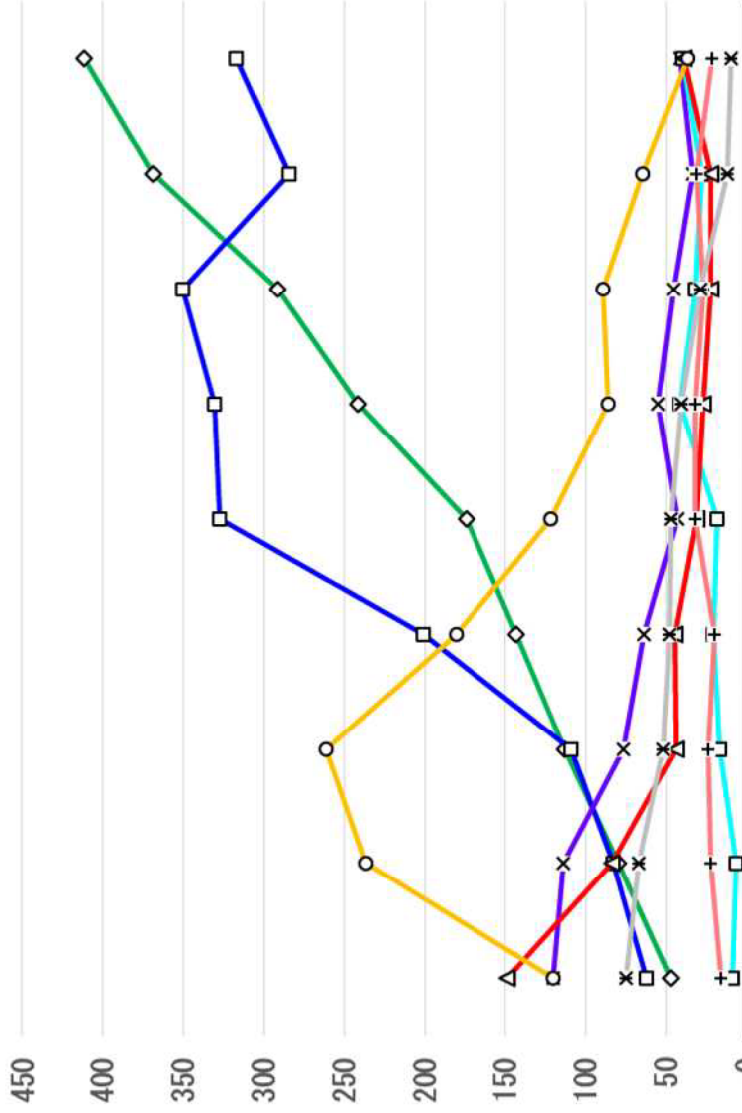
各年齢で被害児童数が減少しているところ、16歳、17歳の被害児童数が約8割。



資料6

主なコミュニティサイト種別の被害児童数の推移

サイト別では「複数交流系」が最も多く、次いで「チャット系」。



	H25 上半期	H25 下半期	H26 上半期	H26 下半期	H27 上半期	H27 下半期	H28 上半期	H28 下半期	H29 上半期
複数交流系	47	80	113	143	174	242	292	369	412
チャット系	62	83	109	201	328	331	351	285	317
ブログ、掲示板系	120	114	77	64	43	55	46	34	42
動画等投稿・配信系	9	7	17	21	19	42	32	28	40
ゲーム、アバター系	149	84	44	45	31	27	23	23	39
ID、QRコード交換系	120	237	262	181	122	86	89	65	37
ランダムマッチング系	16	23	24	20	32	32	27	31	22
不明	75	67	52	48	47	41	29	12	10

複数交流系：広く情報発信や同時に複数の友人等と交流する際に利用されるサイト

チャット系：面識のない利用者が同士チャットにより交流するサイト

ブログ、掲示板系：趣味やカテゴリ別のコメント、日記等を掲載し、それを閲覧した利用者と交流するサイト

動画等投稿・配信系：動画や画像、音声等を投稿、配信し、それを閲覧した利用者と交流するサイト

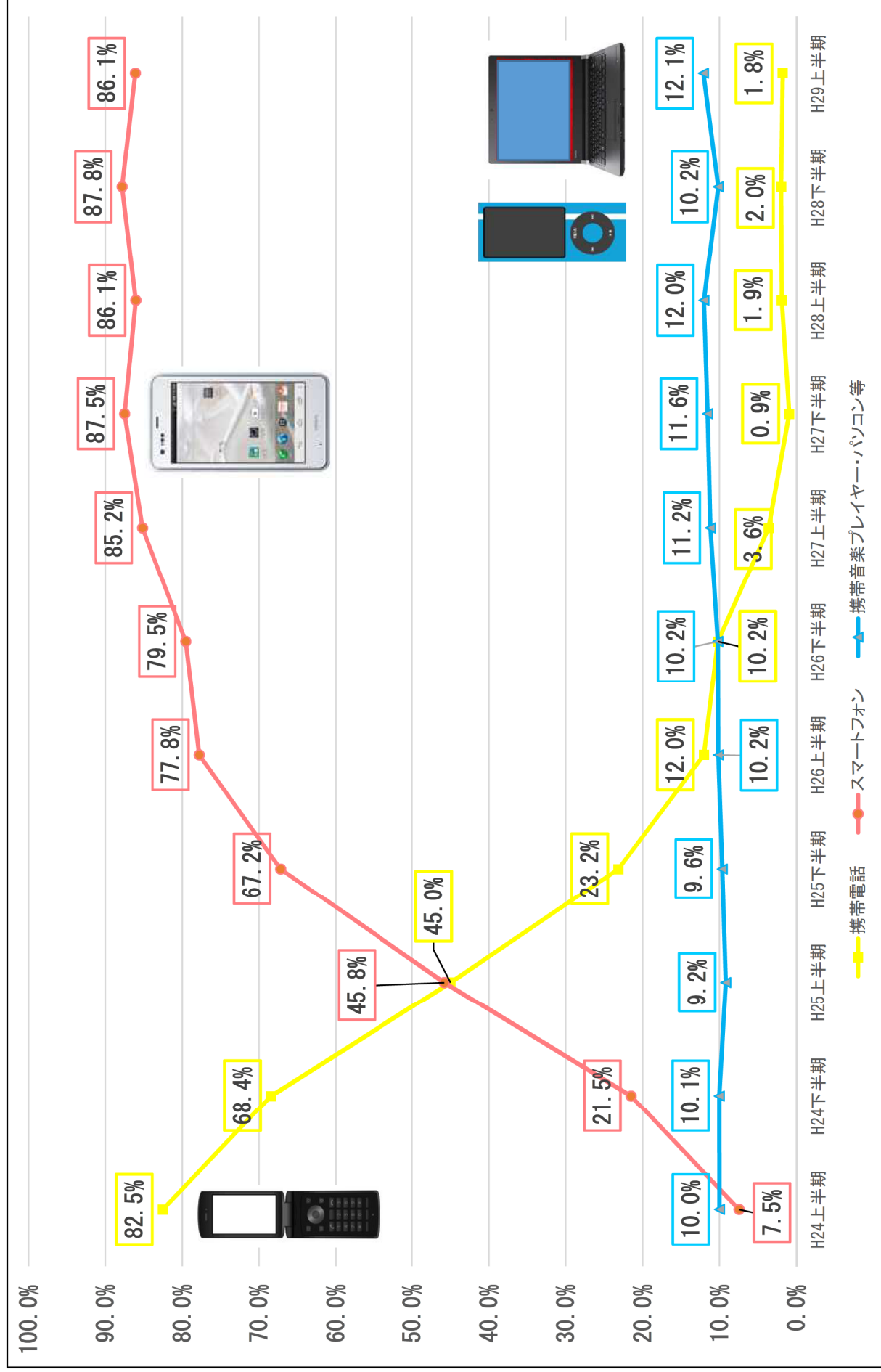
ゲーム、アバター系：主にゲーム等のキャラクターやアバターとしての利用者と交流するサイト

ID、QRコード交換系：IDやQRコードを交換し見知らぬ相手と交流することを目的としたサイト

ランダムマッチング系：ランダムに他の利用者と結びつき、その利用者と交流するサイト

不明：サイトやアプリを特定するに至らなかったもの

被害児童のコミュニティサイトへのアクセス手段は、約9割がスマートフォン利用。

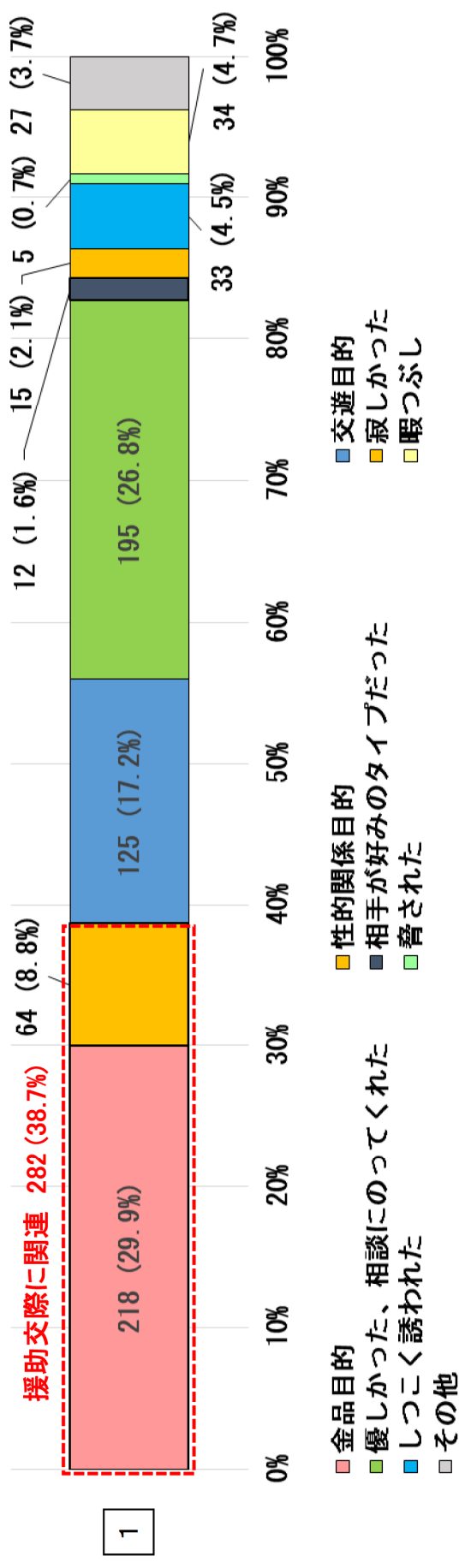


資料8

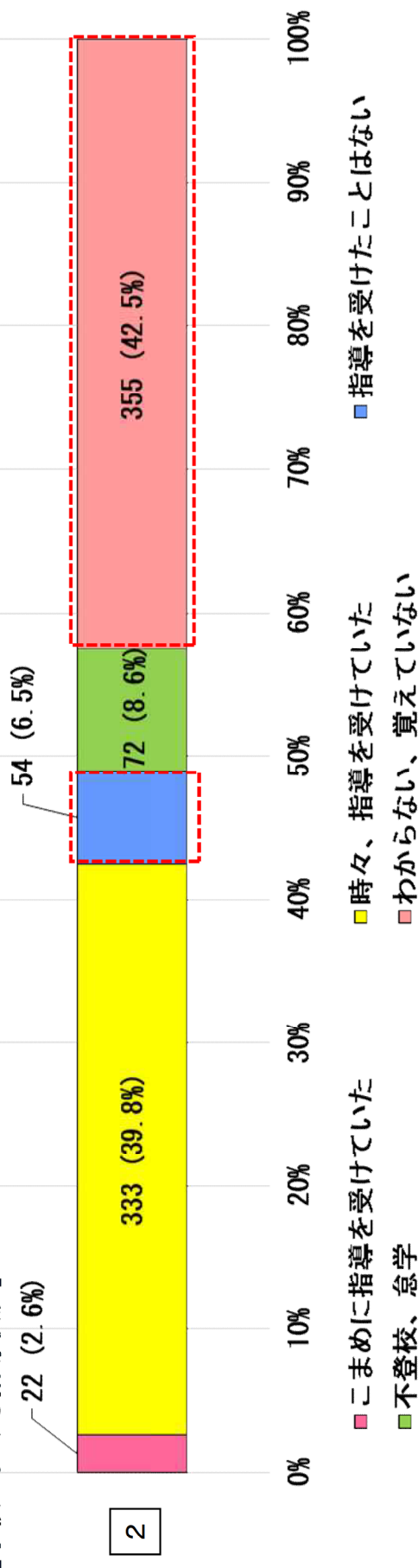
コミュニティサイトにおける被害児童の現状

- 被害児童が被疑者と会った理由では、「金品目的」や「性的関係目的」といった援助交際に関連する理由が約4割。
- インターネット利用等に関して、「指導を受けたことはない」と回答した児童が約半数。

【被害児童が被疑者と会った理由】n=728



【学校における指導状況】n=836

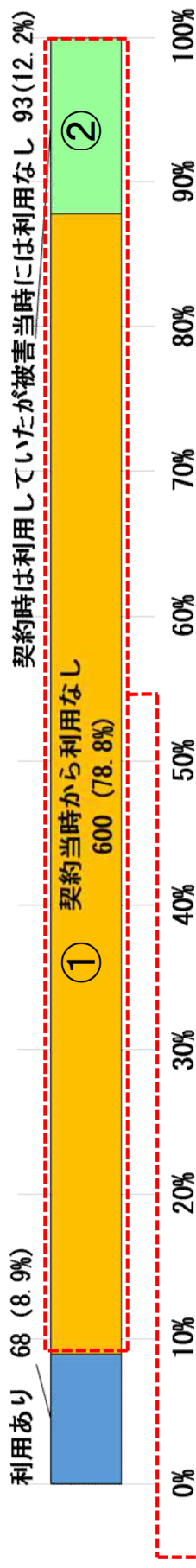


資料9

フィルタリングの利用状況

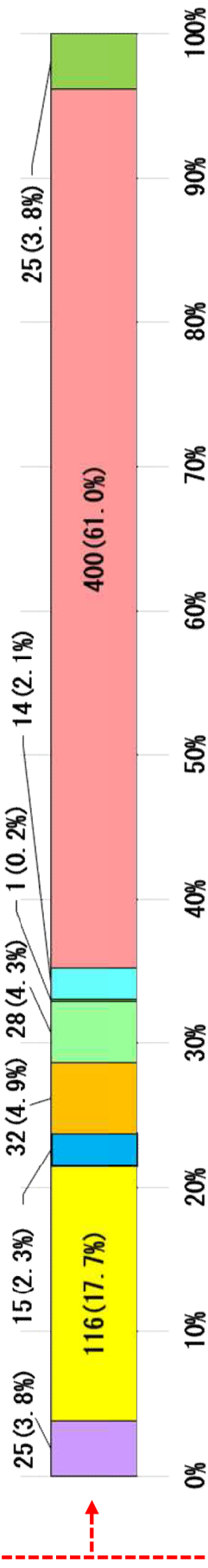
- ・ フィルタリングの利用の有無が判明した被害児童のうち9割以上が被害当時にフィルタリングを利用せず。
- ・ フィルタリングを利用しなかった理由について「子供を信用している」、「子供に反対された」等と回答した保護者が多く見られた。

【フィルタリングの利用状況】 n=761

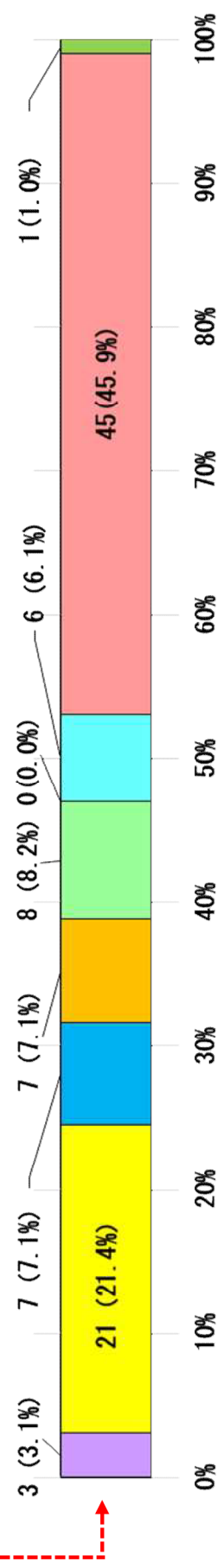


【保護者がフィルタリングを利用しなかった理由】 ※複数回答あり

① 契約時から利用なし n=600



② 契約時は利用していたが被害当時には利用なし n=93



- 子供が不適切な利用をしないように管理できるため
- 制限されるサービスを使わせるため
- 効果がわからない
- 子供に反対された
- その他
- 子供を信用している
- 設定や内容変更が難しいため
- お金がかかると特に関心がない

Twitterに起因する被害児童数は327人で、全被害児童の3分の1強を占める。

